

佐那河内小学校
「学力実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

小中学校9年間を見通した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員 校長：倉橋誠一 教頭：森永直美
堀井 晴美 教務・国語主任：清水 愛
特別支援コーディネーター：和田久美子
人権教育主事・低学年推進員：竹内友梨
高学年推進員：山崎 仁 算数主任：福田明美

校長

倉橋 誠一



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1) 知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○素直で、与えられた課題に対して真面目に取り組む児童が多い。 ●身に付けた知識・技能を生活の中で役立てるなど活用することに課題がある。また、学年が上がると、学力差が大きい。	・基礎的・基本的な力を確実に身に付け、様々な学習場面や生活で活用することができる。 ・語彙を増やすとともに、適切な言葉や漢字を使って、文章を読んだり書いたりすることができる。	・小テストやドリル学習などを行い、基礎的・基本的な力の定着を図る。IT指導の充実や効果的なタブレットの活用、具体物を用いた体験的な活動を取り入れ、個に応じた指導をする。 ・読書活動や視写の活動を取り入れ、語彙を増やし、適切に使用できるよう指導する。 ・身に付けた知識・技能を活用する場面を意図的に取り入れた授業を展開する。	・読書活動をより高めるために全校で週末読書に取り組む。 ・そのほかの取組については、継続する。		

(2) 思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○文章中から正しい答えを見つけられる児童が多い。既習事項をもとにして考え、自分の言葉で表現しようとする児童が少しずつ増えてきた。 ●筋道立てて説明したり、友達の考えを受けて自分の考えを再構築したりするに課題がある。	・既習事項をもとにして自分の考えをもち、考えの根拠を明らかにしながら書いたり話したりすることができる。 ・友達の考えを自分の考えと比べながら聞き、共通点や相違点を見出し、自分の考えを更新することができる。	・授業では、児童が考えを書いたり、交流したりする場を設定する。(書く活動を重視する) ・「聞き方・話し方ナビ」や思考ツール、考えを表現するための手引き等を活用し、スモールステップで指導し、自信をもって意見を言ったり説明をしたりすることができるようにする。 ・ペアやグループ等の学習形態を工夫したり、タブレット、ホワイトボード等を活用したりして、考えを深め、学び合う学習集団づくりに努める。	・取組を継続するとともに、思考力・表現力のより一層の向上を図るため、作文帳を活用したり、根拠や理由を示しながら自分の考えを表現することができるよう指導したりする。		

(3) 主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の学習や家庭学習に、意欲的に取り組むことができる。 ●課題解決や苦手を克服するために、自らの学びを振り返り学習計画を立て見直しをもって取り組んだり、粘り強く続けたりすることに課題がある。	・自らの課題を発見し、解決するための計画を立て、粘り強く取り組むことができる。 ・自らの学びを振り返り改善しながら進め、自分をより高めたいという意欲を高めたり、学ぶ楽しさを感じたりする。	・主体的な学びとなるよう、単元のはじめに共に課題を設定し、計画を立て、学習の筋道を理解させる。また、振り返りの視点を示し、児童自らが学びについて振り返り、満足感と次時への意欲を高めることができるようにする。 ・「家庭学習の手引き」を配付し、家庭と連携しながら家庭学習の内容を充実させたり、読書の習慣化を図ったりする。 ・ICTを効果的に活用し、学習に対する興味・関心を高める。	・自らの課題に合った学び方を身に付け、粘り強くがんばることができるよう指導支援していく。 ・そのほかの取組については、継続する。		

令和6年度 学力向上ロードマップ

